

平成22年度第1回地域会議議事概要

平成22年11月4日（木）、青森市内において、地域会議を開催しました。

この会議は、私ども日本原燃㈱が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、弊社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催しているものです。

【委員（五十音順）】

芦野 英子 様	エッセイスト
上長根 浅吉 様	六ヶ所村商工会会長（浅工務店社長）
菊池 としえ 様	六ヶ所村保健協力員協議会会長
北村 真夕美 様	㈱青森経営研究所代表取締役社長
武輪 俊彦 様	武輪水産㈱代表取締役社長
平出 道雄 様	青森中央学院大学地域マネジメント研究所長
村井 正昌 様	六ヶ所村原子力等エネルギー政策懇話会座長
吉田 豊 様	弘前大学名誉教授（前学長）

【会議風景写真】



【議題】

「再処理施設の工事計画変更に伴う、県民の皆さまの理解獲得について」

【議事】

◆弊社社長の挨拶概要

開催に先立ちまして、一言、私からご挨拶を申し上げます。

本日はお忙しい中、地域会議の委員の皆さま方におかれましては、貴重なお時間を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃から弊社事業に格別のご理解とご指導を賜り、重ねて御礼申し上げます。

前回の地域会議は昨年10月末であり、約一年ぶりの開催となり誠に申し訳なく思っております。この一年を振り返ると、前半はなかなか動きのない閉塞した状況でしたが、6月17日16時55分にレンガ回収に成功してから、ようやく今後のことを色々と考えることができるようになりました。しゅん工に向けた工程をより具体的に詰めることができ、去る9月10日、しゅん工時期を思い切って2年延期した次第であります。これが大きなテーマの一つ目であります。

もう一つのテーマとして、海外からの返還廃棄物の話があります。電力各社は英仏両国に使用済み燃料の再処理を委託しており、その結果、高レベル放射性廃棄物は順次返還されておりますが、低レベル放射性廃棄物についても今後返還されるということでもあります。本件のスタートは今年3月、主体である電事連、受け入れる側の弊社、加えて経済産業大臣にも動いて頂き、知事に受入れを要請いたしました。参院選もあったことから夏以降に動きが本格化し、8月19日には青森県からご了解を頂き、10月20日には廃棄物管理事業の変更許可を国へ申請しております。

明るい話題としましては、10月28日にMOX燃料加工施設が着工しております。計画を公表してから10年を経てようやく着工にこぎつけ、原子燃料サイクルの確立に向けて大きく前進することとなり、大変嬉しく思っております。

本日は、工程変更を中心に、私たち日本原燃が県民の皆さまからご理解を得るために、どのようにすべきかについてご指導賜りたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

◆各委員からのご意見等

◇しゅん工時期変更について

- ・村民の中には、今回のしゅん工延期を心配する声もある。
- ・一年ぶりの地域会議ということで、前回会議の資料に目を通してきたが、内容的には一年前と殆ど同じである。難しい課題が多いのだなと感じた。前回の地域会議でも「余裕を持った工程」で平成22年10月のしゅん工を目指すとしていたが、結果的には、平成21年12月を目途としていたレンガ回収が平成22年6月となった。うまくいかなかった理由は何か。また、レンガ損傷については、急激な温度降下が原因と推定しているが、あくまでも「推定」であり、もしそうでなかった場合、どうするのか。
- ・昨年のこの会議の締めくくりで、「しゅん工時期をこれ以上は延ばせないよ」とはっきり言ったと思うが、難しい問題だったと実感している。レンガの特性の話にしても、そんなことは初めからわかっていることであり、今さら何を言っているのかというのが正直なところである。レンガといえば、素人目には焼きものを思い浮かべ、そんなことすら原燃はできないのかと考える。
- ・いつまでにやるという期限を設けるのは難しく不可能に近いのではないかと。2年というのは「余裕を見て2年」と受け止めているが…。そうでなければ、県民は「またか…」という思いになる。
- ・再処理工場について一般の県民はあまり関心を持っていないように感じる。しゅん工が延びたと聞いても「またか…」という程度である。放射線による影響についても以前ほど気にしなくなっているのではないかと。
- ・しゅん工の遅れについては、丁寧な説明をしていることもあり、納得せざるを得ない。
- ・アクティブ試験を慎重に安全に確実に進めることは良いことである。2年かけてしっかりやると社長が不退転の決意で臨まれるので、何も心配していない。信頼している。
- ・しゅん工時期について小刻みではなく2年延長というのは結果的に良かったのではないかと。何よりも、現場の人が大切であり、そうした人達が余裕を持って安心して働ける場が大切であるため、末端で仕事をしている人のことを考えると良いことであると思う。
- ・是非2年以内に、いや、2年という計画でやったが1年半でできたということにして貰いたい。また延長か、というのはもうできない。頑張っただけ。

◇海外返還廃棄物受入れについて

- ・県民目線ということ言えば、海外返還廃棄物の話は非常にわかりにくい。全体でどれだけ発生し、そのうちどれだけを六ヶ所村で受け入れるのか等々、あまり県民は知らないのではないかと。情報はわかりやすく伝える必要がある。
- ・海外返還廃棄物の話は、低レベル放射性廃棄物なのに扱いとしては高レベル放射性廃

棄物となるのか、その辺がわかりにくい。

- ・国や県の見解として安全であるならば良いことだと思うが、我々六ヶ所村民にすれば地元＝六ヶ所村である。そういう点を良く考えて対応して貰いたい。放射性廃棄物に高レベル・中レベル・低レベルとあることを村民は疑問に思っている。

- ・低レベル放射性廃棄物を高レベルに置き換えて受け入れればコスト低減となり、経費面でかなり有利となるのではないかな。

- ・海外返還廃棄物の話は、最終処分地がまだ決まっていないことを改めて浮き彫りにしたように感じる。

- ・海外返還廃棄物については、知らないうちに沢山返ってくるのだなというのが本音であったが、日本原燃の説明を聞いて安心した。

◇ 広告・チラシについて

- ・今後、海外返還廃棄物に関するチラシを作るのであれば、若者への理解浸透を図るため、是非コンビニに置いて欲しい。若者は新聞を取らなくても、コンビニには必ず行く。コンビニへ多少手数料を払ってでも置いた方が良いのではないかな。

- ・かわら版も新聞折込みではなく、手渡しとできないか。せめて六ヶ所村だけでも。他の広告と混じって捨てられてしまう可能性がある。内容も地元である六ヶ所村ネタを織り込んで貰えとなお良い。

- ・E T Tの広告は大変良い取り組みである。注文をつけるとすれば、活字が多すぎて誰も見ないのではないかな。見出しをより大きくし、絵を入れるとなお良い。沖縄にある海水揚水発電所の広告は、青い海の絵が一面に出ていて感動する内容であった。絵の効果は絶大で、インパクトがあって良い。

◇ ふれあい訪問について

- ・ふれあい訪問については、対話する時間が与えられていないように感じる。一軒一軒の家を回るのに精一杯で、時間に追われ忙しそうに回っている。単にパンフレットを置きに来ているだけである。「お元気ですか」とか何か一言あっても良さそうなものなのに…。私のところへ来てくれた方にもお茶くらい出したいが、あまりに忙しそうなのでそういう雰囲気にならないこともある。ゆっくりお茶を飲みながら話をすることも必要である。最近原燃社員を見ていると、ノルマに追われて慌しい雰囲気である。これだと訪問を受けた側もかわいそうである。原燃社員に来てもらって厭な顔をする人はいない。皆待っている。そういうことをつくづく感じている。2年延期で、皆、不景気になるなあと感じている中、色んな意味で言葉がけは大切である。

- ・ふれあい訪問を通じて、相手から「あの人と話をしたい」と思われるようになって貰いたい。今はしゃべる時間もないような感じである。ふれあい訪問時に不在の場合、名刺を入れておくだけでも違うのではないかな。今のやり方は、義理で仕方なく回っているように感じる。

- ・ふれあい訪問で配付している「六ヶ所村のみなさまへ」には、担当者の名前とフリーダイヤル番号を記載し、後から聞きたいことを聞けるようにすれば、もっと親密さが増すのではないかな。

◇ 日本原燃の技術について

- ・ガラス溶融炉は国産技術で本当に大丈夫なのか。海外の技術を採用していれば今頃には操業していたのかなという思いはある。雇用を考慮すれば国産技術を選択するしかなかったのかなとも思う。

- ・私自身や周囲の方は、日本型の溶融炉の開発を通じて、ノーベル賞に該当するような技術が生み出されれば青森県としても喜ばしいと考えている。時間に限りがあるというものの、焦らず・急がず・着実に仕上げて欲しい。青函トンネル建設工事では世界に誇

る様々な技術が生み出されたが、再処理工場でも世界の脚光を浴びることがあればなお良い。

- ・ベトナムの受注が決まったことで、原子力発電所に対する日本国民の意識が変わると思う。ガラス溶融炉では苦勞しているが、博士論文が沢山できるほどの技術をもって、大量処理・長期間使用可能なものに仕上げたい。そして、特許は取得すべきである。将来輸出することを視野に入れた意気込みが必要である。確固たる日本の技術で日本は勿論のこと各国の役に立つという視点で進めて貰いたい。

- ・日本の技術は安全面でも優れているので、その点はセールスポイントである。

- ・やがて外国が三顧の礼を持って、日本原燃に再処理技術を移転して下さいとお願いしてくる時期が来る。確固たる技術を確立することが大切である。そのためには、技術者を増やす必要がある。高給を払わないと、よい人材は集まらない。世界トップレベルの技術を持つ日本原燃の技術者は、世界でもトップレベルの報酬を貰っているという循環が大切である。

◇その他

- ・次期埋設（余裕深度処分）についても非常にわかりにくく、誰もがわかるような説明にして欲しい。

- ・何かあれば沖縄以上に危険な状態となる可能性があるにもかかわらず、基地問題を抱えている沖縄県には総理大臣が足を運ぶが、青森県には来ても担当大臣である。先日の原子力委員会での知事のコメントにはそうした思いが反映されているのでないか。国としての主体性が見えない、総理大臣が直接来て、サイクルに対する考え方をはっきりと示すべきという思いがあったように感じる。

- ・原子力委員会の委員には原子力の専門家だけではなく、立地地域の受け止め方を反映してくれる委員が必要ではないか。

- ・MOX燃料加工施設の着工は大変嬉しい。本当に良かったと思う。

以 上